東京多摩プロバスニュース

第 33 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行:編集委員会 2010.11.10

■電話・FAX (042)338-7022 ■URL: http://www.tokyo-tama-probusclub.com

豊かな経験を生かし、多彩なプロバスライフを

第 75 回 定例会

日 時 :平成 22 年 9 月 1 日(水)午後1時 30 分より

場 所 :関戸公民館第2学習室

出席者 :28 名(会員数 36 名)

第 76 回 定例会

日 時 :平成 22 年 10 月 6 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :つむぎ館第 1 会議室

お客様 :＊多摩市役所健康福祉部高齢支援課:大城忍様
養和純子様・小出寿美様
＊多摩市国際交流センター: 金丸洋二様・横畠文美様

出席者 :26 名(会員数 36 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

「多摩で楽しむ」 **総務委員長 西村政晃**

私は 1966 年以来、新宿(後に笹塚)にある菓子メーカーに勤務しました。その大半がマーケティング部門で、おいしい菓子の開発に従事しました。多忙な毎日でしたが、アフターファイブには日本山岳会と日本ネパール協会の運営に時間を費やし、30 年前に移り住んだ多摩の自宅には、まさしく寝に帰るだけの日々でした。

3 年前の夏、41 年間働いた勤め先をリタイア、アフターファイブの趣味の公益法人二つの役員も終えて、いよいよ毎日を多摩で過ごす時を迎えました。団地の人たちの他は知る人も少なく、内心どのように過ごすか、困惑の時でした。

その年の秋、「多摩市国際交流センター(TIC)」の活動に参加させてもらうようになり、その縁で中村昭夫会員にプロバスクラブを紹介・推薦していただき入会しました。入会するまでプロバスクラブの名前も知らなかったのですが、入会して様々な分野で豊富なキャリアをお持ちの方々の集まりと分かり驚いたことでした。私は前述したとおり一つの会社で 41 年間過ごしましたので、皆様の多彩なご経験・見識に触れいつも興味深く、心楽しい時を過ごさせていただいております。

“多摩へ寝に帰るだけだった私”のもう一つの驚きは、プロバスクラブの見学会や「多摩の自然を守る」座談会などを通して多摩の豊かな自然に触れたことでした。今までニュータウンの開発で多摩丘陵の自然はその多くが失われたものと思っていましたが、随所に里山が保全され、「よこやまの道」やその他あちこちに緑地が残され緑がいっぱいです。野鳥や蝶などの動物の種類もきわめて豊富です。

すばらしい方々との交遊と、豊かな自然に接することができ、楽しく過ごさせていただいている多摩の毎日です。

「多摩プロバスクラブフェア 2010」を開催

開催期間 ; 2010 年 9 月 22 日~27 日

◇◇◇　会長･幹事･委員会･プロジェクト報告　◇◇◇

1. 第４回全日本プロバス協議会総会に参加して

鴻池敬和会長

9 月 12 日(日)、全国 23 クラブ 164 名出席のもと、旭川市ロワジールホテルにて盛大に開催された。当クラブからは筆者と滝川益男・滝川道子両会員の３名が出席。

金森正夫会長から、現在の 100 クラブ結成（加盟 56 クラブ）までの経過報告があり、吉川哲朗幹事長からは、各ブロック間の相互交流、クラブ間の卓話の交換などを積極化したい旨の方向性が示され、全会一致で承認された。

会計報告と役員改選（執行部はおおむね留任）の後、各ブロックの代表７クラブから活動報告があり、各クラブとも会員数の維持・増加や「会員親睦」と「社会奉仕」の兼ね合いが課題である旨を報告。

東京八王子 PC 杉山友一会長は、親睦と奉仕の２枚看板を掲げ、地域内での奉仕活動はロータリーや JC（日本青年会議所）の活動と肩を並べるところまできたと語った。

大阪 PC の川土居長慶前会長は、月２回の例会活動で「仲良さ」「上品さ」「華やかさ」を旨とし、親睦を重視しているが、やがては社会奉仕活動も生まれるはずと報告した。

特記すべきは今回総会を主催した旭川 PC で、会員数は５年前の結成以来 102 名を数え、今回の総会運営も、参加者約 60 名のほか多数の役員が総会後の懇親会や翌日の市内観光などで献身的に活躍し、万遺漏なき見事な運営ぶりであった。

会場入り口

懇親会のひととき

2 幹事報告

神谷真一幹事

1) 9 月 1 日(水)定例会時報告：初の「多摩プロバスクラブフェア 2010」の準備は、着々と進められている。9 月 16 日(木)に最終実行委員会を公民館の和室で開催した。

2)10 月 6 日(水)定例会時報告:10 月 5 日(火)日野プロバスクラブが発足。鴻池会長と神谷幹事両名が会場の高幡不動尊客殿での記念式典に参列。詳細後述。

3)10 月 17 日(日)八王子プロバスクラブ創立 15 周年式典：鴻池会長、大澤副会長、平田広報委員長、滝川会員、神谷幹事の５人が参加。詳細後述。

4)「多摩プロバスクラブフェア 2010」が成功裏に無事終了し、会員各位のご協力に感謝、ありがとうございました。

3. 委員会報告

3.1 総務委員会

西村政晃委員長

1)9 月度定例会(9 月 1 日)　出席:28 名　欠席:8 名

卓話:鈴木達夫会員が「山手線一周ウォーキング」と題し、平成 20 年春３回３日間で新宿から時計まわりで 29 駅、距離 34.5 キロを歩いた面白い経験を披露した。

2)10 月度定例会(10 月 6 日)　出席:26 名　欠席:10 名

地域奉仕委員会がコーディネートし、多摩市役所健康福祉部による「認知症サポーター講習会」を開催した。詳細後述。

10/6 総務委員会

3.2 研修･親睦委員会

関根正敏委員長

８月・９月は異例の猛暑のため活動を休止していましたが、やっと秋らしい気候になりましたので、10 月以降下記の企画を予定しています。

- 10 月 20 日(水)　武蔵国分寺跡とハケ散策
- 11 月(日時未定)　横山の道ウォーキング
- 12 月 1 日(水)　忘年会（定例会の後）

3.3 地域奉仕委員会

滝川道子委員長

初の“多摩プロバスクラブフェア 2010”は、一人一人の持ち味が生かされ、全会員心を合わせ、つつがなく終了することができました。当委員会としての参画もでき、プロバスの歴史の一頁を飾ることができ、感謝致しております。

10 月例会では、山田喜一会員のご尽力により、「多摩市認知症サポーター講習会」を開催いたしました。

次の活動として、学校関係に対する奉仕活動ができるよう蓮池副委員長が奮闘中です。良い方向に拓かれて行くことを念じます。

3.4 広報委員会

平田哲郎委員長

先頃開催された“多摩プロバスクラブフェア 2010”に向けたチラシの作成を当委員会が担当し、山田(正)・増山両会員の適切なアドバイスを得て、無事作成配布できました。

4. 環境問題プロジェクト

稲田興リーダー

［7 月度炭酸ガス排出量調査結果］

前回 4 月調査と同じ 21 名の方々にご協力いただきました。結果は 22%減と大幅な削減が見られ、夏場の電気使用量が大幅に増えるとの予測を覆し、ガソリン使用量が増えたものの、電気・ガス・灯油の使用量が大きく減少した結果でした。

これは会員それぞれが意識してエコな生活スタイルを再構築し、無駄なエネルギーの削減にご努力された賜物と考えられます。なかには４月実績を半減させた会員もおり、この会員が省エネ投資を積極的に行った結果でした。

電気とガソリン使用による CO_2 排出量が全体の 77%を占めるため、今後これらを中心に無駄排除を進める方向です。

◇◇◇　多摩プロバスクラブ特別企画　◇◇◇

“多摩プロバスクラブフェア 2010”開催

蓮池守一実行委員長

会員相互の親睦・交流と、会員の豊かな経験を生かし、地域社会に奉仕することを基本理念に活動しているのが東京多摩プロバスクラブ。その活動の一つとして実施したのが今回の“多摩プロバスフェア 2010”です。

ギャラリー会場

開催日は 9 月 22 日(水)から 27 日(月)までの一週間。多摩市関戸公民館を会場に、ギャラリーでの展示と 25 日(土)大会議室での特別イベント企画で実施しました。

ギャラリー会場では、会員の個人作品も含めて主にサークル活動での絵画・写真・俳句等の展示やサイクリング・ゴルフ・釣り・男の料理教室グループ等のスナップ写真、当クラブ発足期からの主な記録写真パネル等でのクラブ紹介。

更に特別コーナーとして、茶道連盟の協力をいただいた抹茶お席の振る舞いや、会員による自然環境保護の一分野である生物多様性問題の中から、わが国のホタルの生息分布や生態系の変化に関する解説とホタルの発光実験、ビデオによるプロバス活動の上映等の三企画を設け、多くの参観者から感動・感銘の声が寄せられました。

ギャラリーでの圧巻は、会員の現役時代からの経験と知恵の産物としてのお宝・秘宝の一部を公開・展示した品々でした。その中のいくつかを記すと、東西に分離独立していた時のドイツベルリンの壁崩壊の破片の実物、多摩市民マラソン招待者ザトベックのサインと記念写真、ネパール国王から贈られた花瓶、永井隆直筆「平和を」の書や、会員自作や記録の茶道具・茶杓類、貝合わせ遊び道具一式、へらブナの魚拓や日本棋院から授与された段位認定証、身近で手軽にできる盆栽作りの手引き記録、海外音楽交流活動記念やホールインワン賞、父から贈られた家宝の道具等の品々。

参加者が立ち止り、一つ一つの品々を見て、その解説をじっと読み、それぞれに何かを思い考え、時折耳にする言葉に心を打たれることが多くありました。参観者それぞれからの声を集約することはできませんでしたが、俳句サークルの指導者お二人が、小西会員発案の短冊に席書きしていただいたものを記します。

曼珠沙華こころのほかは寄りそえず　　雪二
プロバスは宝の山や小鳥来る　　春兎

25 日(土)大会議室での特別イベント。午前中の第一部は小学生を主たる対象に、古澤・登坂両会員をリーダーに、牛乳パックや古ハガキを再利用して紙飛行機・風車・紙トンボを「作って遊ぼう」の工作教室と、日本の中世期貴族の間から発達し遊ばれていた伝統文化の「貝合わせ」の絵図書きと遊びの指導を吉岡会員を中心に行い、残念ながら時間不足ではあったが、参加児の喜喜たる声が響き渡り、いつかは十分時間をとっての実施を考えさせられました。

午後の第二部は、滝川道子会員による一般市民を対象にした「江戸しぐさを今に生かす」と題しての講演会。

博識かつ実演を通して江戸期の庶民と文化にも触れながら、特に人間関係を豊かにする挨拶や言葉遣い、狭い道をすれ違う時の傘ささえなど、いくつもの具体的しぐさを交えての熱弁に、あっという間の一時間。その中には、現代社会での電車内など公共の場での道徳についての問題提起もあり、参加者に大きな反響を呼び起こしました。

なかでも江戸時代の年齢ごとの子育て目標“三つ心・六つ躾・九つ言葉・十二文・十五理”で未来が決まるとの教育論には、深く考えさせられるものがありました。

第三・四部はプロバス会員と市民を共に楽しむ会として、まずは多摩市落語「寝床の会」の協力による二人の前座落語、最後は今春真打ちになられた多摩市在住の三笑亭可龍師匠による落語で大爆笑の一時間。続いて中村会員と「多摩ダンディーズ」による軽音楽と大熊会員と「花みずき会」による大正琴演奏の夕べを 6 時過ぎまで実施。最後は会員合唱で盛り上がり、和気あいあいの内に多彩な特別イベントの一日を終わることができました。

フェアを終えて

今回のフェア開催中に、八王子プロバス・多摩市・多摩ローターリーの方々をはじめ近隣市の知人・一般市民延べ五百余名の参加者を頂き、予期以上に盛り上がり、成果も得られたものと思っておりますが、客観的評価は市民一般の我がプロバスクラブへの今後の認識や諸活動への理解・協力の輪の広がりと高まりに期待したいと考えています。

最後にフェア開催に当たり、事前の準備や市民への広報活動への努力、一週間という長丁場のなか展示品等にも事故も無く無事に終了することができた運営に、会員の知恵と行動力、底力を改めて見出すことができ、更に今後の奉仕に関する幅広い活動の企画に期待が生まれた次第です。

◇◇◇　対外交流　◇◇◇

1. 東京日野プロバスクラブの誕生　　神谷真一会員

今年初めより、東京日野ロータリークラブは東京飛火野ロータリークラブと共同で、東京日野プロバスクラブの創設に取り組んできました。10 月 5 日に高幡不動尊客殿会場で創設にいろいろと協力されてきた東京八王子プロバスクラブの方々、当クラブからは鴻池敬和会長と神谷真一幹事が約 100 名の参列者の中に参加しました。

式典は、日野市副市長小川孝氏、全日本プロバス協議会立川冨美代副会長、高幡不動尊川澄祐勝貫首の祝辞、東京日野プロバスクラブ 26 名の紹介、記念品贈呈、初代東京日野プロバスクラブ篠原昭雄会長の挨拶、全員での写真撮影の後、記念祝賀会に移りました。

八王子プロバスクラブ杉山友一会長の祝辞の中に、9 月に開催した「多摩プロバスクラブフェア 2010」を紹介していただき、大変印象深い祝賀会となりました。

隣席の初代東京八王子プロバスクラブ会長の大野聖二様とは内容の濃い話もでき、これから八王子、日野、多摩三市のプロバスの横の絆を深めていくうえでもとても良い機会でした。

創立式典祝賀会場

式典では八王子市教育長、全日本プロバス協議会金森正夫会長、東京南八王子ロータリークラブ会長の祝辞、物故会員に黙祷、「15 年の歩み」の説明、永年在籍者顕彰が手際よく進められた。

当日は横浜・鎌倉・横須賀・港南台・日野・わたらせの各プロバスクラブに加えて、八王子南ほか近隣の 8 ロータリークラブの参加があり、祝賀会は 150 名を超える盛況であった。オペラ歌手の独唱や会員の男声合唱も織り込まれ、会場は祝賀と交流の華やかなムードに包まれた。

八王子プロバスクラブの長年にわたる一貫した活動に改めて心から敬意を表する次第です。

2. 東京八王子プロバスクラブ 15 周年記念式典　　大澤亘副会長

10 月 17 日(日)、東京八王子プロバスクラブの創立 15 周年記念式典・祝賀会に鴻池会長・神谷幹事・平田哲郎広報委員長・滝川益男会員と私の計 5 名が出席した。

当日午後別会場で行われた記念講演会から場所を市内八日町の宴会場「八王子エルシー」に移して式典・祝賀会が開催された。

金森会長を囲んで懇談のひととき

◇◇◇ 9 &10 月 ハッピーバースデー ◇◇◇

誕生日を迎えた方々　　文責・楠慶二会員

9・10 月に誕生日を迎えられた会員 8 名からの言葉

- 永井岩男（9 月 1 日）この 1 年が笑って、怒って、感激した年でしたから、これからの 1 年は友情と優しさに包まれたものでありたいです。
- 増山敏夫（9 月 7 日）誰でも 1 年たてば確実に誕生日がやってくる！　歳は取りたくないけれど、祝ってもらうのはうれしいものですね――幾つになっても。
- 鈴木達夫（9 月 10 日）後期高齢者の歳を迎えました。健康に留意し、適度の運動と規則正しい生活で、楽しく有意義に努めたいと思っています。

誕生日を迎えられた方々
増山・登坂・中村・関根・鈴木各会員

- 登坂征一郎（9 月 21 日）子曰く、七十にして心の欲するところに従って矩を論えず。吾未だ小人の域に惑う。
- 関根正敏（9 月 30 日）2 年前に高齢者の仲間入りをしたのに誰も信じてくれない。喜ぶべきか、悲しむべきか！？
- 中村昭夫（10 月 5 日）誕生日を迎えて幾つになったという実感はまったくありません。相変わらずこれからも先を見ながら、新しいものを追い求めてゆきたいと思います。自らが年齢で限界を感じたら、人生それでおしまいと思って生きてゆきたいと思います。
- 大熊妙子（10 月 12 日）今の自分の健康をありがたく思い今の幸せが子どもや孫にずっと繋がるように祈ります。さらに日本をもっと元気にしたいですね、それが私の願いです。
- 熊本房義（10 月 22 日）お陰様で 83 歳を迎えました。今後はただ有意義な人生を送りたい。

◇◇◇　養成講座　◇◇◇

認知症サポーター養成講座　　山田喜一会員

尊厳をもって最期まで自分らしくありたい。誰しもが望むことですが、この願いが阻まれ、深刻な問題になっているのが認知症です。いまや老後の最大の不安になり、5 人に 1 人が高齢者という超高齢化社会を迎えた日本にとって最も重要な課題になっています。

認知症は、誰にでも起こりうる脳の病気によるもので、85 歳以上では 4 人に 1 人はその症状があるといわれています。認知症の人が記憶障害や認知障害から不安に陥り、その結果まわりの人との関係が損なわれ、家族が疲れきって共倒れしてしまうことも少なくありません。しかし、周囲の人の理解と気遣いがあれば穏やかに暮らしていくことが可能です。そのためには地域の支え合いが必要です。誰もが認知症についての正しい知識をもち、認知症の人や家族を支える手立てを知っていれば「尊厳ある暮らし」をみんなで守ることができます。そこで地域奉仕委員会では、東部地域包括支援センターから大城忍ケアーマネジャー、養和純子社会福祉士、小出寿美看護師をお招きし、「認知症サポーター養成講座」を 10 月定例会のなかで開催しました。

講座は、最初に東京都や多摩市の高齢化の現状、東京都では 5 年後の 27 年には 4 人に 1 人が 65 歳以上の時代を迎える。その高齢者の 1 割が認知症の人、何らかの認知症の症状がある高齢者は都内に約 29 万人。多摩市の高齢化率は 20.2%、徘徊高齢者数は 120 人を数えているが年々増えている。

次に「認知症とはどういうものか」という認知症の症状、予防についての考え方が話された。

続いて「認知症の人に接するときの心構え」「介護をしている家族の気持ちを理解する」ことなどが話された。最後に「認知症サポーターとしてできること」について、いつ自分や家族が認知症になるかわからない。他人ごととして無関心でいるのではなく、自分たちの問題という認識を持つことが認知症サポーターの第 1 歩である。そして認知症の人やその家族の応援者として、穏やかな目配りと温かな声かけを――ということで締めくくられました。

定例会終了後、講座の中で話された認知症の予防には「魚と赤ワイン」ということを、会員有志で身を持って体験実践したことをあわせて報告いたします。

左から小出さん・養和さん・大城さん

◇◇◇　卓　話　◇◇◇

山手線一周ウォーキング　　鈴木達夫会員

ＪＲ山手線の駅数は 29、距離は 34.5 キロ。電車は約 1 時間で一周する。線路沿いに一周歩いた場合は 40 キロ前後として、3 日間で時速 3～4 キロで歩けば、1 日 5～6 時間で完歩できる。平成 20 年春、ウォーキング仲間 5 人と歩数計を持ち山手線沿いを時計回りに新宿駅から歩いた。

＊第 1 日目　3 月 24 日　曇　新宿駅～上野駅

歩数:27,500 歩　距離:16 キロ　時間：6 時間

新宿駅 9：30 にスタート。歌舞伎町のコマ劇場を抜け、新大久保の韓国人街から高田馬場、目白を経由して池袋までは見晴らしがよく混雑は無い。池袋ではサンシャイン 60 の脇を抜け、駒込駅を通り「都立六義園」（国指定特別名勝）に立ち寄る。園地は現在残されている数少ない大名庭である。谷中方面へと進み、やがて谷中の墓地に入る。15 代将軍・徳川慶喜の碑にお参りする。上野へ進む途中の電気店を覗くと、ＷＢＣの野球をテレビで放映中、10 回表バッターイチローがセンター前にヒットを放ち、劇的な勝利を収めたシーンに出合い強運であった。余韻さめやらぬ足取りで上野公園の花見会場から上野に到着。

エビスガーデンプレースにて
右端が鈴木会員

＊第 2 日目　3 月 27 日　晴　上野駅～品川駅

歩数:25,000 歩　距離:15 キロ　時間：6 時間

上野駅 10:00 スタート。アメ横は早朝で閑散、秋葉原の電気街から神田方面へ日本銀行前を経て、大手町界隈へ出る。日本の大手企業の本社ビルが立ち並ぶ一隅に、あの承平・天慶の乱で殺された「平将門の墓」があり、いまでもお詣の人が絶えない。日比谷公園から新橋を経て、浜松町の東京タワーへ到着、展望台で 360 度の大都会の景観を楽しみ、高輪の泉岳寺に立ち寄り品川に到着。

＊第 3 日目　4 月 2 日　晴　品川駅～新宿駅

歩数:27,000 歩　距離:15,5 キロ　時間：6.5 時間

品川駅 10:00 スタート。北品川から五反田へ向い、池田山へ。素敵な階段の小公園があり桜が満開で絶景であった。池田山の豪邸を見ながら、美智子妃殿下の実家跡（現在は公園）に立ち寄り、白金台の東京庭園美術館を見学。桜が多く美しい公園で、日本庭園なども素晴らしい。自然を堪能して恵比寿ガーデンプレース着。サッポロビールの跡地に近代的なオアシス・洒落たレストランやカフェが並ぶ。渋谷から宮下公園を通り原宿へ、大鳥居をくぐり明治神宮の境内を経て、最後のコースは新宿御苑へ歩を進める。その名前は信州高遠の領主・内藤新宿の江戸屋敷があった場所で命名されたことを知る。やり遂げた満足感に浸った。

◇◇◇　会員の旅行記１　◇◇◇

私の「シルクロード」　　**岡野一馬会員**

今年はロシヤ・ウクライナ・ハンガリーを旅してきた。私の所属するグループ「あるく・ド・シルクロード」は文字通り歩いて旅をしようという連中の集まりである。

9月28日成田を発ち、モスクワ・ヴォルゴグラード(ロシヤ)・キエフ(ウクライナ)・ブタベスト(ハンガリー)などを訪れ、10月13日帰国した。16日間の旅で、実行歩程は約120㎞である。

「ある一日」ウクライナにて――10月2日

ウクライナの首都キエフの朝は結構寒い。気温10℃以下か。緯度は50°だからカラフトと同じ。この国は、面積60万k㎡で日本の1.6倍、人口4700万人の大国である。

ガイドのユリヤさんはキエフ大学日本語学科の学生で、太宰治や坪内逍遥の研究をしているとか。

市の高台、ヨーロッパ広場より、朝もやの残るドニエプル川と市街を一望する。市内の石畳の道を車のタイヤがピチピチ音を立てて走る。18～19世紀に建てられた石造建築は、高さが統一されて町並みが美しい。

聖アンドリー教会(キエフ)――筆者のスケッチ画

キエフの街角――筆者のスケッチ画

ドニエプル川を渡り、中州の森を散策する。モネの絵のようなスイレンと木橋のある風景に出合う。橋の上で老夫婦がのんびりと釣りをしている。バケツを覗くとハゼに似た20ｃｍ位の魚が20尾程。にっこり笑ってあいさつする。

午後、コザック野外博物館へ行く。18～19世紀のコザックの村落を再現し、その文化・風俗・宗教などを紹介している。池の上の橋で、先込め銃とフェンシングのコザック時代の戦争劇。日本の時代劇、チャンバラ風で、子供も大人も結構楽しんでいた。

「ある一日」ハンガリーにて――10月6日

ハンガリーの首都ブタベストに入る。この国は面積9.3万k㎡、日本の約1/4、人口約1000万人の小国で、幾多の興亡の歴史がある。ブタベストは「ドナウの真珠」といわれる美しい世界遺産の町であり、壮麗な王宮・大聖堂などが点在する。また世界的に有名な温泉国で、ブタベストには50近くの浴場がある。日本の温泉プールの感じの混浴。水着着用だが彼らの堂々たる体躯に圧倒された。

ドナウ川に架かる鎖橋(ブタベスト)――筆者のスケッチ画

◇◇◇　会員の旅行記2　◇◇◇

熱燗のワイン　永島仁会員

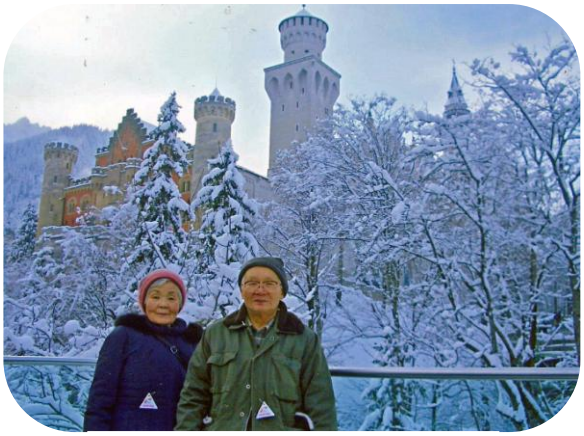
久しぶりにドイツの旅を楽しんできた。暮れのクリスマスを迎える準備に忙しく動き回る人々の姿は、どこも同じようだ。なかでもひときわ人だかりなのは、やはり食べ物の屋台でソーセージ、馬蹄形の硬パン（ブリュッセル）、それにグリューワインだ。勿論、食べ物の屋台だけではなく、クリスマス飾り、蝋燭、モミの木などところ狭ましと立ち込んでいる。

アウグスブルク・ローテンブルク・ヴュルュッブルク・レーゲンスブルク・ミュンヘンと旅を重ねたが、何れの町も雪に覆われて気温は－12℃と寒さが厳しかった。ビール好きのドイツ人でも、厳しい寒さの中では胃に暖かい飲み物が好まれるのは当然、熱燗のグリューワインだ。

作り方を紹介しよう。これはドイツのクリスマスには無くてはならないもののようで、したがって、各家庭で作られるグリューワインも、好みで味が違うようだ。

① ワイン 240cc・水 100cc・シナモンティク 1 本・グローブ 5 粒・好みの香草・ミント・ショウガすりおろし・蜂蜜少々などを用意。

② 鍋にワイン以外のものをすべて入れ弱火で3～5分位沸かし、赤ワインを加えて 60℃位に暖めてできあがり。アルコール分が足りない人はブランデーを加えるとよい。試してみては如何でしょう。



ノイシュバンシュタイン城の前のご夫妻

◇◇◇　サークル活動　◇◇◇

グルメサークル―柳橋界隈逍遥記　平田哲郎会員

近年、江戸風情をしのぶ風潮が目立つのを受け、今回グルメサークル(滝川益男リーダー)が日本橋・浅草界隈を探索する計画をとりあげ、江戸末期から栄えた柳橋の老舗「亀清楼」を訪れる運びとなった。柳橋といえば、新橋・赤坂と並びわが国において政財界ならびに角界の夜の社交場として殷賑を極めた一級の花柳街。今回訪れる「亀清楼」は安政元年(1854 年)創業で、150 年をへて柳橋に唯一現存する最後の料亭である。

10 月 1 日(金)11 時 30 分、馬喰横山駅に降り立った 16 名の会員は、初秋の日差しの中を浅草橋に向かい、神田川をまたぐ橋上に立ったが、その昔酔客がさんざめいた料亭の姿も今はなく、僅かに両岸に残る船宿や佃煮屋、そして神田川にもやわれた大型の屋形船にその面影を偲ぶのみである。

参加メンバー16 名の皆さん

浅草橋から約 200 ㍍進むとグリーンに塗装された柳橋に到着、橋上から亀清楼の看板をバックに記念撮影した。

今は広壮なビルの一角を占める「亀清楼」を訪れる。玄関にさりげなく飾られた平山郁夫画伯の名画に迎えられ、石段を上がり大広間に通された。

静かなたたずまいの中で、江戸前の伝統の料理に舌鼓を打ち歓談すること約 1 時間半。生前「亀清楼」を愛した平山画伯の数多くの名画を拝見し、また、角界最高の権威である横綱審議会の会場である重厚な部屋に案内されたりするうちに 2 時近くになり解散した。散会後は、「江戸東京博物館」に向かうグループと、人形町に移動し、甘酒横丁周辺を散策する筆者のグループとに分かれ、それぞれに江戸情緒を満喫し、初秋の一日を江戸三味で過ごした。

ゴルフサークル―花咲Ｃ．Ｃ．にて　楠慶二会員

1 年ぶりの池田杯争奪コンペを、10 月 13 日(火)に開催しました。参加メンバーは 7 名(鈴木・増山・登坂・関根・北村・楠各会員に北村夫人)です。素晴らしい晴天に恵まれ、山々を見つめながらの楽しいゴルフを初参加の北村夫人がより一層盛り上げてくれました。

優勝は鈴木会員(49-48 で本人は不本意なスコア)で、またまた池田杯の持ち帰りとなりました。

ゴルフを楽しんだメンバー

◇◇◇　私の一品　◇◇◇

「調和」　　**堀内陽二会員**

1996年5月2日、北京中国美術館における在日中国写真家馮学敏（フォン・シュエミン）氏の写真展のオープニング行事に出席のため、私達夫婦は北京に向かいました。

翌3日の開会式の後、中国政府高官等と一緒に会場を回り馮氏の写真作品を拝見しました(その写真の製作処理はすべてわが社「堀内カラー」で行いました)。その夜は人民大会堂での祝賀晩餐会で主賓席に招かれ、その席上突然のスピーチの指名を受け、あわてた思い出があります。

今回の“私の一品”はこの時のひとコマです。人民日報の社長邵華澤（ショウ・ホアツォ）ご夫妻主催の満漢宮廷料理による晩餐会の席上、邵社長より“好きな言葉”をと聞かれ、とっさのことで「私は『調和』という言葉を大事にしています」と答えたところ、私達の目の前で筆をふるって下さった。邵氏は中国でも名だたる書道の大家で、この方の直筆の書を持つのは、日本でも首相クラスの僅かな人しかいないことを後で知り、恐縮し感激しました。誠に思い出深い“私の一品”となりました。滞在中、その他に身に余る数々の歓待を受けました。何故そのような国賓並み？扱いを受けたか不思議に思われることでしょう。

写真家馮学敏氏は1985年32歳の時、中国新聞出版協会公費研修生として来日、まず「講談社」写真部で写真を学ばれ、次いで日本大学芸術学部写真研究生として、更に当時のわが社「堀内カラー」で写真処理技術の実習をし、1991年「旭通信社」(現在ＡＤＫアサツー・ディ・ケイ)写真部に入社し、1995年には写真部副部長となりました。

来日以来約10年間撮り続けた写真作品の発表が、北京中国美術館で初の大がかりな写真展となったわけです。

私達夫婦は彼の来日以来の付合いで、彼の人柄や誠実純真で、写真に対する真摯な態度にひかれ、写真は勿論、公私にわたり親交を深め、私達を日本でのお父さんお母さんといった気持ちで接してくれました。また、彼の撮影の写真は「堀内カラー」がほとんど処理してきました。

人民大会堂における祝賀晩餐会席上の人民日報社長邵華澤氏による墨跡“調和”。左より邵華澤氏ご夫妻と筆者ご夫妻

故郷に錦を飾るに相応しい写真展の開催に際し、私たちへの彼の気持ちが中国側に伝えられたのでしょう。それが人民日報の招待となり、彼の晴れ姿を共に喜び合う北京の訪問となったわけです。その後、今日までの彼の活躍・業績は枚挙にいとまがない。来日以来25年間、日本に住み続けＡＤＫの写真部長をへて、現在フォトグループの担当局長の要職にあります。

とっくに写真業界から完全に引退した私とは今でも家族的友情は変わらない。顧みれば14年前の日中関係(中国の日本を見る眼）と今のそれと比べ隔世の感があります。

◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞　　池田　寛
作曲　　中村　昭夫

聖の桜仰ぎつつ　多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた　我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス　プロバス　多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ　心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて　次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス　プロバス　多摩プロバスクラブ

◇◇◇　編集後記　◇◇◇

○初めての「多摩プロバスクラブフェア 2010」は蓮池守一実行委員長の報告にありますように、大きな事業をやり遂げた実感と、市民との交流の接点になったことは、今後の活動に大きな自信に繋がったかと思います。
○対外的には、鴻池敬和会長の第4回全日本プロバス協議会総会への参加、神谷真一幹事の日野PCの発足、大澤亘副会長の八王子PCの15周年式典の参加の報告は、相互に知己を広げ・研鑽の交流の輪が広がることを期待したい。
○山田喜一会員の「認知症サポータ養成講座」は、正に我々の身近な問題として考える必要があることを認識し、「地域包括センター」の存在や講習の主旨など有意義であった。
○岡野一馬会員の私の「シルクロード」は回を重ねて中国から遥か東欧のハンガリーに達し、ローマへは後僅かとなりました。いつもながら道中の素晴しいスケッチに魅了され、踏破への情熱に敬意の念を覚えずにはおれません。

今号も素晴しい寄稿を頂き、充実した紙面を編集することができ、感謝致します。(登坂記)